

栗山町 御中

くりやま若者シティプロモーション事業業務

グループインタビュー調査結果報告書

2016.3.

dentsu

株式会社 電通北海道

調査概要

定性的なグループインタビューの実施により、定量調査における数値に表れない、栗山町民の地元意識や都市部居住者の移住意識の「ホンネ」の部分を引き出す。

- 調査の目的：
 - ① 栗山町に住んでみた人しかわからない、栗山町の「強み・良さ」そして「弱み・課題」を定性的抽出し、これからの栗山町への若者移住促進に向けた仮説の発見・構築を行う。
 - ② 栗山町への移住も期待される札幌市の子育て層が感じている都市生活の状況、札幌近郊での暮らしに対する認識やニーズ等を定性的に抽出し、これからの栗山町への若者移住促進に向けた仮説の発見・構築を行う。

- 調査方法： グループインタビュー法

- 調査対象者：
 - ① 栗山町在住の既婚子有女性7名（栗山町役場人選による）
 - ② 札幌在住の既婚子有男性7名（調査会社による機縁法）
 - ※機縁法：調査会社のネットワークによる対象者リクルート法

- 調査内容： インタビューフロー参照

- 調査場所日時：
 - ① 栗山町：栗山町総合福祉センターしゃるるAV室：2016年2月24日（水）18：00～20：00
 - ② 札幌市：片岡ビル（札幌市中央区南2西3）5階B会議室：2016年3月2日（水）18：30～20：30

対象者プロフィール

① 栗山町居住者 女性

No. (略称)	年齢	同居家族	小学校区	居住歴
1	35	主人 小4(女)・小2(女)	角田	出身:栗山町
2	30代	祖母・父・母 主人 4歳(女)・2歳(男)	角田	出身:栗山町 (7年位月形町に在住)
3	40	主人 中2(女)・小6(女) 1歳半(女)	角田	移住者(新規就農) 出身:横浜市 栗山町居住歴:2年弱
4	33	主人 小5(女)・小2(女) 保育園年長(男)	継立	移住者(新規就農) 出身:浦河町 栗山町居住歴:4年(札幌から)
5	30	主人 小1(男) 保育園年中(女)	継立	出身:長沼町 栗山町居住歴:7年
6	32	主人 小4(女)・小1(男) 保育園年中	栗山	出身:栗山町 (1年位千歳市に在住)
7	32	主人(旭川単身赴任中) 小1(男)・2歳(女) 保育園年中	栗山	出身:長沼町 栗山町居住歴:10年

② 札幌市内居住者 女性

No. (略称)	年齢	同居家族	住所	居住歴	移住意向・関心有無
1	25	妻(24歳) 3歳(男)	札幌市 東区	出身:岩見沢市 札幌市居住歴:3年半 岩見沢市から札幌へ	関心はある
2	26	妻(24歳) 1歳(男)	札幌市 中央区	出身:苫小牧市 札幌市居住歴:7年 苫小牧市から札幌へ	関心はある
3	36	妻(34歳) 3歳(男)	札幌市 白石区	出身:札幌市	関心ない
4	30	妻(27歳) 0歳(男)	札幌市 手稲区	出身:池田町 札幌市居住歴:5年 紋別市から札幌へ	関心ない
5	32	妻(34歳) 3歳(女)・0歳(女)	札幌市 北区	出身:赤平市 札幌市居住歴:3年 深川市から札幌へ	関心はある
6	37	妻(36歳) 小2(女)・5歳(女)	札幌市 豊平区	出身:旭川市 札幌市居住歴:10年 留萌から札幌へ	関心はある
7	39	妻 小4(女)・小1(男) 3歳(女)	札幌市 東区	出身:厚岸町 札幌市居住歴:8年 中標津から札幌へ	58歳で退職後、 ニセコ町への移住 を希望

提示素材(栗山町の資産)①

<p>1. 御大師山</p>  <p>夏は涼味を誘い秋は紅葉を飾る、風光明媚な天然の樹木が茂る御大師山(おだしやま)。1989年には御大師山一帯が環境庁(現環境省)の「ふるさといきもの里」に選定されています。</p>	<p>2. 栗山公園</p>  <p>御大師山の裾野に広がる町民の憩いの場である公園で、5月には約300本の桜並木が一斉に開花し、多くの観光客で賑わいます。園内にはSL広場や無料で入場できる「なかよし動物園」、キャンプ場などの施設が整備されています。</p>	<p>3. 雨煙別小学校 ココ・コーラ環境ハウス</p>  <p>戦前の1936年に建てられ、木造2階建ての校舎としては歴史的建造物の雨煙別小学校(1998年閉校)。2009年、(財)ココ・コーラ教育・環境財団の支援と多くの町民ボランティアの手によって、宿泊可能な自然体験研修施設として新しく生まれ変わりました。</p>	<p>4. ファーブルの森 観察飼育舎</p>  <p>多様な昆虫や鳥などが棲める、変化に富む環境として御大師山の一部に整備された「ファーブルの森」。観察飼育舎では国産「オムラサキ」の生態に関する資料が展示され、人工飼育により羽化の様子も観察できます。</p>	<p>10. くりやまコロッケ</p>  <p>栗山町の肥沃な大地で収穫されたじゃがいも、かぼちゃ、玉ねぎ、トマトが主原料。収穫から6か月以上低温倉庫でじっくりと糖化熟成させたじゃがいもは、芋本来の甘味や旨味、風味が味わえます。</p>	<p>11. さらさらレッド</p>  <p>栗山町限定で生産されている健康機能性たまねぎ。血液をさらさらにする成分ケルセチンが従来のものに比べ1.5~3倍含まれています。</p>	<p>12. 谷田の日本きびだんご</p>  <p>1923年、関東大震災からの復興を願い創製された「起備団合(きびだんご)」。厳選した天然素材を使用し、古くから広く北海道民の皆様にも愛されています。</p>	<p>13. 日原メロン</p>  <p>メロン栽培一筋40年。火山灰地に広がる農園は理想的な風土と気候条件が揃い、様々な手をかけて最高品質のメロンに仕上がります。</p>
<p>5. 小林酒造</p>  <p>1878年、札幌市で造り酒屋として創業した北海道最古の蔵元「小林酒造」。敷地内には、築100年を超える西洋建築のレンガ蔵や札幌軟石の石蔵が点在し、一番蔵~六番蔵、資材庫、住宅など13棟が国の登録有形文化財として2006年に登録されました。</p> <p>※北の錦記念館  建物は小樽の銀行をモデルに設計され1944年に完成した旧日本社事務所。2006年には国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。酒造りの歴史を刻んだ酒器や什器、身の回り品など約5000点を展示しているほか、酒蔵見学、お酒の販売や試飲を行っています。</p>	<p>6. 開拓記念館・泉記念館</p>  <p>開拓記念館は開拓期に使用された生活用品や農機具、模型やジオラマ、空の上からの栗山を映像で見る「空中散歩」などの資料を展示しています。泉記念館は1898年に泉麟太郎が建築した木造平屋建ての茅葺屋根住宅で、栗山町有形文化財に指定されています。</p>	<p>14. 栗まんじゅう</p>  <p>1931年創製の栗まんじゅう。小粒でちょっぴり塩味がきいた昔も今も変わらぬ味で、お茶との相性が抜群です。</p>	<p>15. 栗山町産の栗で作った「栗山町の渋皮煮」</p>  <p>栗山町産の栗をひとつずつ丁寧に手刺しき、ラムとバナナで香りづけしたマロングラッセ風の和菓子「栗山町の渋皮煮」。</p>	<p>16. くりやまハムバーガー</p>  <p>バラベーコンと無添加のポークソーセージを使ったハンバーガー。「くりやまマルシェ2015夏」で行われた第4回栗山監督杯争奪「うまいもんグランプリ」でグランプリを獲得。</p>	<p>17. くりやま夏まつり</p>  <p>栗山町を代表する夏のイベント。初日は郷土芸能パレードや活みこしが会場を練り歩き、二日目には全道から20団体を誇る和太鼓チームによる太鼓演奏、花火大会が行われます。</p>		
<p>7. 栗の樹ファーム</p>  <p>現在、北海道日本ハムファイターズの監督である栗山英樹さんが造った天然芝の少年野球場。隣接するログハウスには、イチロー選手をはじめ日米の名プレイヤーが使った野球グッズが展示されています。</p>	<p>8. 農村景観</p>  <p>栗山町は、遠く山並みの自然景観を背景に、山間部の裾野となっている丘陵地には畑が、夕張川流域にかけた平野部には水田が広がり、四季折々に農作物が作り出す変化に富んだ彩ある田園風景が代表的な景観資源となっています。</p>	<p>9. 北の錦</p>  <p>北海道最古の蔵元「小林酒造」の初代小林米三郎が「北海道で錦を飾ってやろう」という意気込みから、銘酒「北の錦」は誕生しました。人・米・水すべてが北海道という地酒中の地酒を目指しています。</p>	<p>18. 栗山天満宮例大祭</p>  <p>かつては各地の祭礼を回った露天商たちが最後に集っていた名残から、300店を超える露店数は道内屈指。特産品が集う「くりやま味覚まつり」ほか、9月25日には獅子舞や御神輿渡御が町内を練り歩きます。</p>	<p>19. 老舗まつり</p>  <p>小林酒造の「北の錦酒蔵まつり」と谷田製菓の「きびだんごまつり」、栗山町を代表する老舗同士がジョイントした春のイベント。小林酒造では完全ガイドによる酒蔵開放、谷田製菓では工場を開放し製造工程を見学できます。</p>	<p>20. くりやまマルシェ</p>  <p>2010年から町内外のうまいものを集めて開催しているイベント。多くの来場者で賑わいます。</p>	<p>21. 栗山監督ファン感謝デー</p>  <p>北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督が監督就任以来、「ファン皆さんに恩返しを」との思いから毎年開催しているもので、道内外から多くのファンが集まるイベントとなっています。</p>	

提示素材(栗山町の資産)②

<p>22. 匠まつり</p>  <p>木のぬくもりともの作りの楽しさを子どもたちに知ってもらおうと「くりやまの匠たち」が開催する「匠まつり」。</p> <p>2007年から毎年8月に開催され、夏のイベントとしてすっかり定着し、町内外から多くの親子連れが訪れます。</p>	<p>23. 札幌ひなまつりコンサート</p>  <p>札幌交響楽団のひなまつりコンサートは、町内のクラシック音楽愛好家やまちづくりに熱意のある方々で実行委員会を組織し、1989年から毎年3月に開催されています。</p>	<p>24. 栗の活用プロジェクト</p>  <p>町名の由来である「栗」の国内最北端の産地化を目指して「ブランド栗」の生産体制を確立するとともに、加工・流通・販売までを地域全体で行う6次産業化を図る取組。2010年に「北のくりやま栗づくり協議会」を設立し、栽培技術の向上、加工商品の開発などの取組を進めています。</p>	<p>25. ハサンベツ里山20年計画</p>  <p>人と自然が共生する環境を残したいという町民有志の思いから、2001年に離農跡地24haを活用してスタートした「ハサンベツ里山20年計画」。毎年5月～11月の第2日曜日を「ハサンベツの日」とし、町内外から賛同者が集って小川や田畑などを復元。四季折々の動植物が作り出す懐かしさを感じる田園風景が広がっています。</p>	<p>32. 国蝶オオムラサキ</p>  <p>日本昆虫学会により「国蝶」に定められているオオムラサキ。1985年に御大師山でも生息が確認され、栗山町は日本の北東限地域となっています。この発見を機に、栗山町のシンボルとして自然環境を保護する意識が高まり、町民と行政が一体となった取組みが行われています。</p>	<p>33. 角田獅子舞かがり火舞</p>  <p>1953年に初めて角田神社に奉納された栗山に伝わる郷土芸能。除夜の鐘と共に、五穀豊穡を祈り厄除け祈願する獅子舞が雪の境内を乱舞します。</p>	<p>34. 栗山監督</p>  <p>名前が縁で交流が始まった栗山英樹北海道日本ハムファイターズ監督。</p>	<p>35. パービー</p> <p>栗山町出身の芸能人。</p> <p>お笑いコンビ「フォーリンラブ」の女性。</p>
<p>26. ふるさと教育の推進</p>  <p>栗山町では、みんなで支え合い、ふるさと栗山を大切にしている人育てる教育を推進しています。</p> <p>町内全小・中学校で地域を題材にした授業や自然体験学習などを行っています。</p>	<p>27. 高校生までの医療費無料化</p>  <p>栗山町では、子育て支援対策として、2007年から中学生までの医療費無料化を実施していますが、2015年からさらに高校生まで拡大しています。</p>	<p>28. 北海道介護福祉学校</p>  <p>1988年、全国でも珍しい町立の介護福祉士養成校として開設。これまで2,000名を超える卒業生を輩出し、地域の介護福祉士として活躍しています。</p>		<p>36. 味道広路(あじどころ)</p>  <p>ミシュランガイド2012北海道版で一つ星を獲得した日本料理店。</p>	<p>37. はらへー太</p>  <p>栗山町の老舗の中華レストラン。</p>	<p>38. 値ごろ市</p>  <p>栗山の新鮮野菜や花苗・特産品が揃えられている農産物直売所「値ごろ市」。</p>	
<p>29. サケ稚魚放流事業</p>  <p>かつてはサケが遡上していたと言われる夕張川にサケを戻そうと、2008年から栗山青年会議所の主催による「サケ稚魚放流事業」が行われています。あわせて、「サケの里親事業」や雨煙別川の清掃活動などの継続した取組が、落着工を迂回する魚道整備(2015年)につながっています。</p>	<p>30. 移住促進事業</p>  <p>栗山町では、2010年に官民連携した「くりやま移住促進協議会」を設置し、栗山町への移住を促進する事業を進めています。特に町内の民間企業の協力のもと体験施設を整備し、栗山の暮らしを体験してもらおうと「くりやま暮らし体験事業」は道内外から多くの移住希望者が体験しています。</p>	<p>31. 子育て支援事業</p>  <p>栗山町では、「子育てするなら栗山」と若者世代から求められるまちづくりを進めています。</p> <p>ファミリーサポートセンターや子育て支援センターの毎日解放、保育園の主食代補助、延長保育、土曜保育など子育て支援サービスを充実しています。(2015年 子育て支援センター 移転オープン)</p>		<p>39. くりどん</p>  <p>「くりどん」は栗山町4Hクラブが栗山町産うどんをPRするために誕生したキャラクターで、どんぶりの形をした頭には、きつねうどんの具材が載っています。</p>	<p>40. オオムラサキカップくりやまサッカーフェスティバル</p>  <p>町内のふじスポーツ広場を中心に開催される少年サッカー大会。道内各地のチームが参加しています。</p>		

調査結果

1-1. 栗山町居住者(既婚子有女性)にとっての『栗山町の強み』

栗山の子育て女性を感じている『栗山町の強み』は「**栗山町民の人の良さ**」と「**程よい田舎的環境**」。
その2つの要素が「**子供の住みやすさ・子育てのしやすさ**」を形成しており、子育て層に生活の満足感を与えている。

町内で足りないものは「町を出て町外で済ませる」のが前提。日常生活の不便は感じていない。
栗山町への愛着も強く、町での生活に対する満足度も全般的に高い様子がうかがえる。

栗山町民の「人の良さ」

- ・栗山町に移住を決めたのは、栗山町の「人が良い」から
(他所から来た人にもにこやかに応対してくれる)
- ・近所のお年寄りや中高生も子供の面倒を見てくれる
雰囲気がある、**町全体につながり**を感じる

栗山町は「程よい田舎(自然と適度な利便性)」

- ・きのこ、山菜採りや川遊びなど**自然と戯れる**
- ・施設が整っているわけではないが、「**何もない**」のが
子供にとっても楽しそう
- ・札幌を含めて**道内各所へ行きやすい**
- ・千歳にも近く、道外へのアクセスも良い
- ・長沼町には北洋銀行が無いので栗山町へ
- ・ある程度の物資は栗山町で手に入る
- ・以前住んでいた月形に比べれば「栗山町は都会」

子供が住みやすい・子育てしやすい栗山町

- ・子供が一人で遊びに行くのも子供も楽しそうだし、**周りの人も子供を見てくれている**
- ・学校行事も**自然の中で子供が楽しめるものが多い**
- ・子供が少ないせいもあるが、一人ひとりにスポットライトを当てて、個人として認識しれくれる。子どもも喜んでいる
- ・栗山町ではあまり学習塾やお稽古事に活かしている、というも聞かない。**札幌だと子供がたくさんいると教育費などでお金がかかりそう。**

栗山町内には「無い」のが当たり前。 無いものは他地域・他の方法で済ませるもの

- ・日常の買物は町内スーパーで事足りるし、ネットショッピングも使うので**不便は感じない**
- ・週末、子供に外出気分を味わせる(ファーストフードで食事)際は岩見沢、新さっぽろ、江別、北広島へ車で出かける
- ・「カラオケ」とかの施設も、**栗山町に「ない」というのが当たり前**になっている。行きたければ車を運転して町外にできればどうにでもなると思っている
- ・週末に町外に行行って遊んで帰ってきて、それで満足

1-2. 栗山町居住者(既婚子有女性)にとっての『栗山町の弱み』

生活者視点として、栗山の子育て女性を感じている『栗山町の弱み』は地方生活の不便さの中でも「医療に関する事」。特に子供の病気が多い世代のため、頻繁に病院に行く必要があるのに、いちいち市外へ出ないといけない場合が多く、不便を感じている様子がうかがえる。
また、自家用車での移動が前提となっているため、**子供の通学の不便さや老後の移動の不安も。**

栗山町内の医療の不便さ

- ・子供の医療費が高い(小学校へ上がると補助が無くなる)
- ・町内に病院が無い(利用頻度の高い耳鼻科や皮膚科が無い)
- ・町内の日赤病院も診療科によっては午前しかなく、子供を早退させないといけない

地方なのに安くない水道代・家賃

- ・他の町よりも家賃が高め(銀行員や学生の出入りで住宅ニーズもあるので、家賃が高い)
- ・水道代が高すぎる(東京都の3倍)高い理由を広報でも読んだが高いものは高い

公共交通機関の不備

- ・中学の通学が不便(町内バスが整備されていない)
- ・車は必須、車が無いと生きていけない
- ・今は栗山町を出るつもりはないが、老後、車の運転ができなくなったり動けなくなったことを考えると不安。
- ・日出や東山(町の郊外)辺りだと、老後に一人で住み続けるには厳しそう、不便になる
- ・町内のコミュニティバスや都市間移動のバスやJRの本数を増やさないと運転しない人は大変かもしれない

子供のための施設が不足

- ・町内にファミレスやフードコートが無いので、子供に安価で外出気分を満喫させる場所がない
- ・子供に習い事をさせたくても良い所が少ない
※子供の習い事はあまり必要ないとする意見もあったが、行かせようとする人には、町内だけでは不十分となる
- ・子供が冬に遊べるような施設(体育館)が無い
※休日も子供たちは町の施設(改善センター)で友達と過ごしているが、冬場、外遊びができない期間は遊び場が少ない

町内全域で不便の無いインフラ環境

- ・日出のスーパーが欲しい(継立のセブンイレブンは地元の人がたくさん利用している)
- ・町内どこでもインターネット光回線が使えるようにして欲しい

自分だけの事であれば、田舎での多少の不便さはカバー出来ても、子供(特に医療)の事となると、不満に感じている様子。教育や遊びなどの子育ては地方なりのやり方はあっても、医療に関しては、老人のみならず、子育て世代にとっても重要なテーマであることがわかる。

その他、自分達が利用するという前提ではないが、「由仁町のカフェ、長沼にはスーパークレーがあるのに、栗山にはこじれたお店がない」「シ・サワツと前田くらいしかケーキ屋がない」という意見も聞かれた。

1-3. 栗山町居住者(既婚子有女性)から見た『栗山町の資産・魅力』

定量調査でも用いた「栗山町の40の地域資産」への評価・感想としては、町民からの「一押し」の地域資産は特に聞くことができなかった。

「これは知らなかった」という制度も散見しており、栗山町民に向けて、栗山町の特徴や制度の理解を促すことも重要。

★栗山町民が口コミで栗山町の良さを伝えていくことも、シティプロモーション活動の一環として期待でき、必要な活動になるため、インナー(町民)向けのシティPRも重要と巻えられる。

★「栗山英樹氏(現北海道日本ハムファイターズ監督)の存在は、町にとって大きな資産と考えられる。

栗山町の資産について

- ・「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は自費ではちょっと高い。学校行事でやっておいで、という感じ
- ・「栗山天満宮例大祭」は町外から人が押し寄せる人気のお祭り
- ・「角田獅子舞かがり火舞」は角田界限の人にとっては年末の行事としてなじみ深い存在
- ・「きびだんご」「栗まんじゅう」は昔からの馴染み深いお菓子
- ・栗山町に来たらこれを食べなさい！という一押しので地元名物は特にない
- ・町内の飲食店で「栗山監督」のサインが無い店はない
- ・町外でも「栗山監督の栗山町」と言われるくらい象徴的な人
- ・栗山監督は栗山町のイベントによく来てくれ、とても町の取り組みに熱心

地元として推奨する、栗山町ならではのコンテンツは見受けられない

栗山町の魅力発掘に対する課題「町民の理解不足＝町のPR不足」

- ・リストの中に知らないものがたくさんあった
- ・栗山町に住んでいても知らないもの、わからないものがたくさんある
- ・町民に対しても、町のモノやコトに対する告知が足りていない



課題解決策:「町民に対する情報発信の徹底による町の理解促進」

- ・町の情報は「広報誌」と「口コミ」。子どもを通して知るものもある。
- ・町の広報誌ではなく、JAの広報誌から知る場合もある
- ・栗山町のホームページは日々の行事やゴミの分別などを確認する



効果として、町民が栗山を理解し誇りに思うだけでなく、他の地域の人に町の事を推奨(宣伝)してくれることも期待される

- ・他の地域からは栗山町の制度の良さを知らないこともあるので、(例えば歯科診療無料)そういうことを口コミで伝えるあげることも大切だと思う

1-4.栗山町居住者(既婚子有女性)から見た『くりやま若者シティプロモーション事業』

栗山町として、若い世代の移住を促進する活動を行っていることは理解されており、町民としても「何をすればよいか」がわかり、「できる範囲であれば」その活動に協力することに異論は無い様子。

若者の移住促進であれば「保育などの子育てサポートが重要」と指摘する。
また「移住者の活動を支援・手助けするような制度や仕組みづくりも大切」だと声も挙がった。

さらにインナー(町民)に向けたPRが不足している一方、アウター(町外)へのPR不足も指摘されており、**栗山町PR(インナー向け及びアウター向け)の仕組みづくりが今後重要となる。**

栗山町の移住(定住)への取り組みについて

- ・町として一生懸命やっていることは知っていた
- ・新規就農など若い人達を積極的に呼び寄せている
- ・農家の人のための婚活をやっている
- ・町として呼ぶだけ呼んでサポートしないというのであれば、町の取組は良いと思う
- ・子育てをしながら移住をしてくる人もいると思うので、**保育料のサポートなどを町でしてあげると良い**と思う
- ・クラインガルテンのようなカタチで札幌の人を週末だけ暮らしてもらうやり方もあるのではないかと(今ある施設を活用したらよいと思う)
- ・洒落た古民家カフェなども外から来た人や中の若い人がやっているケースが多いが、栗山町ではそのような挑戦を手助けするような仕組みがない
- ・長沼町の「長沼うまうま(長沼町 食ブランドサイト)」は綺麗。同じことをやらないにしても、**もっとうまく栗山町をアピールできないか**

栗山町の移住(定住)活動への関与

- ・自分として何ができるのかはわからないが、協力するのはやぶさかではない
- ・**他の地域の方は栗山町の制度の良さを知らない**こともあるので、(例えば歯科診療無料)そういうことを**口コミで伝えるあげることも大切**だと思う
- ・栗山町に住むまで「未知の世界」だった。
- ・栗山町に住んでみて色々な店があることを知った
- ・(長沼町資産リストを見て)それでも、町のことで知らないことがまだ多いことがわかった

「何をすれば移住促進に役立つのか」が伝われば、町民の参加も期待できる。

重要なことは「町の移住への取組」を含めた**町民への町のPRの徹底**。町の制度・町の魅力を町民に理解してもらうことが移住促進への第一歩となる。

2-1. 札幌市居住者(既婚子有男性)が札幌(都心部)の住む理由

出身は道内地方でも、(大学)進学や就職などのライフステージの変化に際し、地元では受け皿がないため、札幌などの都市部へ移動するケースが多い。

また、現在の子育てに関しても都心部の利便性(子供の病気の際の体制、子供の進学・習い事、子供を遊ばせる施設)を高く評価している上、本人も都会での暮らしに満足している様子がうかがえる。

進学・就職を機に地方から札幌へ

大学や仕事がないので地元を離れる他、都心部の利便性、都会への「憧れ」も要因となり札幌へ移住

- ・大学進学と同時に札幌に住み始め、就職も札幌を希望。
- ・高校を卒業すると周囲の同世代の人がなぜかみんな札幌へ出てしまう。
- ・仕事に就こう活動した結果、就職難もあって札幌に。
- ・札幌には憧れがあった。
- ・昔から札幌に来なければ買えないものがたくさんあったので札幌によく来ていた
- ・故郷(苫小牧)より利便性がよいので
- ・札幌は利便性が高い(娯楽施設が豊富)
- ・高校を卒業して友人と飲食をするようになると、地元(地方)にはそういう場所が少ない

自分自身も都会での生活に満足

- ・自分自身の娯楽(飲食店)が無い場所にはまだ住みたくない。単調な生活はしたくない
- ・紋別で仕事をしていて、札幌に移りたいと思っていた。
- ・札幌の暮らしには満足。

子育てには地方よりも札幌の環境が良い

子育てには自然環境の良さも必要だが、「医療」「教育」「娯楽」など総合的に鑑みると札幌のような都心部の方が適していると評価

- ・札幌にいれば子供の習い事も色々させられる
- ・札幌はショッピングモールなど子供が楽しめる場所が多いが地方には少ない(主要都市しかない)
- ・病院が充実。24時間対応してもらえる
- ・中学、高校、大学と学校を選べる

※人の多さに由来する不便さも感じているものの、大きな不満にはつながっていない様子

- ・保育所が足りないと聞く
- ・イオンのような遊び場は人が多くて自由に遊びづらい時もある

札幌(都心部)生活支持者が多い一方、「田舎暮らし」への興味や憧れをもつ人も。移住ターゲットを絞って狙う事が重要か。

- ・子供は、何もなくても外へ出れば楽しむので、自然の多いところで暮らしてもよいかな、とも思う
- ・子育て時代は札幌が良いが、子育てが終わったらニセコなどの田舎へ移住したいアウトドアを楽しみ、のんびりと暮らしたい

2-2. 札幌市居住者(既婚子有男性)が「地方」に住むことへの意識

子供が学校に通ってしまうと移住は難しい。(移住のチャンスは子供が未就学期、あるいは子離れ期)子育て世代は「職の確保」が必須のため、移住するとしても、仕事が見つけれそうな都心部(地方都市を含めて)を想定。

移住先としては「実家の近辺」など、親元から遠く離れることは避けると同時に、「土地勘がある」エリア、メディアなどを通して知っている「馴染みのある・イメージの良い」エリアであることが重要。

札幌から地方への移住について

- ・今は子供も学校に通っているので移住は難しい。最初から田舎暮らしでスタートしていれば問題なかったと思う
- ・札幌を離れて移住するなら「函館」。大都市だし、働く場所もありそうだから
- ・移住先に必要なものは「仕事」
- ・仕事が見つかるなら移住を考えたい
- ・都市機能(病院や飲食店)が充実しているところ
- ・札幌から2~3時間圏内であればよい(親が札幌にいるので)
- ・道外は移住先の視野にはいりづらい。「北海道」からは出たくない
- ・子育て時代は札幌が良いが、子育てが終わったらニセコなどの田舎へ移住したいアウトドアを楽しみ、のんびりと暮らしたい

移住は本人だけの問題ではなく「家族」の問題。家族のライフステージのあり方、収入、緊急時の行動等を全てを踏まえ、今の暮らしがベストか、別な暮らし方がベターかを検討する様子うかがえる。

移住してもよいと思うエリア

- ・移住したいところは「室蘭」。地元の苫小牧から近く、土地勘がある。苫小牧だと親に頼ってしまいそうで避けたい。実家から遠くなるのも良くない
- ・函館は街並みがきれいそう。テレビの旅番組で見て、よいイメージをもった
- ・十勝は出張で行ってみて食べ物が美味しく景色も良くて好き
- ・ニセコは札幌からの近さもあるが、外国人が増えているなどイメージがよい。将来感がある
- ・美瑛。全国的に有名。おしゃれなイメージがある
- ・札幌に住み続けようと札幌に家を建てたが、今は北海道を出て横浜に住みたいと思っている。最初は札幌に憧れて赤平から札幌に出てきたが、友人のいる横浜に行くようになったら横浜に住んでみたいと思うようになった

2-3. 札幌市居住者(既婚子有男性)にとっての「栗山町」

札幌の人にとって栗山町は「印象が薄い」町。『知人が出身者』等の関わりがない限り、栗山町と言われて連想されるものが極めて少ない。(栗山監督の名は挙げられた)
 「言われてみれば‘きびだんご’は栗山町」、「栗山町に上司が最近行ってお菓子を買ってきたが何だったか覚えていない」など、『栗山町ブランド』が札幌市民には形成されていない様子が伺える。

栗山町として、今後、移住を促進していくにしても、前頁にあるように『移住地として候補に挙がるには、その土地の土地勘や良好なイメージが必要』であるため、『魅力的な栗山町らしさの構築と発信』による栗山町の認知向上と来訪促進がまずは必要。

栗山町らしさ、それは「農村景観」など、栗山町の自然と子育てに適した環境(制度と人の優しさ)であると考えられる。

栗山町といえば？

- ・栗山町は車で通る程度に関わりしかない
- ・栗山町出身の知人の不幸があって葬式に行った
その際小林酒造に立ち寄った程度
- ・会社の上司が最近行ってお土産に何かお菓子を買ってきた(何だったかは覚えていない)
- ・きびだんご、そういえばきびだんごは栗山町だった
(言われて気づいた)
- ・栗山監督の家がある？
- ・木製品の職人がいて、ダイニングテーブルを作っているところがある。一度探しに行こうとした
- ・妻の実家が酒好きなので、「小林酒造」へ酒蔵の見学に行った
- ・昔、コンサドーレの練習場があったころ、見に行ったことがある
- ・岩見沢に住んでいた頃は、栗山出身の同級生もいたくらい馴染みのエリア
- ・(岩見沢に住んでいて)栗山町はJRの本数が少なくて不便住みたいとは思わない

栗山町の資産に関する評価

- ・「農村景観」は良さそう。写真も撮ってみたい
- ・栗山公園の桜や御大師山の紅葉も感動するくらい綺麗なら見てみたい
- ・「栗山天満宮例大祭」は友達から大きな祭りがあると聞いたことはあった(のをリストを見て思い出した)
- ・「くりやま夏まつり」や「老舗まつり」だと何のお祭りなのかわかりづらい。写真を見ないとわからない
- ・はらへー太のチャーハンも、わざわざ食べには行かないが、美味しそう。老舗で間違いなさそう
- ・(栗山町の資産リストを見て)栗山町には魅力的なものが多い
特に「**高校生まで医療費無料**」は目を引いた。
栗山町への移住も「あり」かもしれない
- ・今は子供中心の生活なので、子育て支援が整っているのなら栗山町も良いと思う(ただ不便なのはいやだ)

2-4. 札幌市居住者(既婚子有男性)を移住させるにあたって

旅行や食べ歩きなどの情報を探して行動している世代。

まずはネットを使って町のイベントや食べ物、町の見どころなどを告知し、栗山町の特色を知ってもらい、そして来てもらうことが必要。

また、地方暮らしにおいて、ある程度の「不便さ」は仕方ないし、地方暮らしに都市的な利便性までを望んではないことも伺える一方、生活上の「不自由・不満」を感じさせないような生活インフラ(医療・交通・最低限の買物ができる場所)は望まれるところである。

町として、あるいは他の市町と連携して、あるいは町民の協力によって、移住者でも栗山町の生活に対応できるシステムの構築も大事と考えられる。

栗山町移住へのきっかけづくりに向けて

まずは栗山町の認知・イメージづくりのための情報づくり
ネットを活用してイベント・食などでアプローチ

- ・フェイスブックに知人がアップしたものを見て、訪れたりすることもある
- ・地方のイベントは探していくことがある
インターネットや雑誌(じゃらん)で知る
- ・大きな花火大会はわざわざ行く(混んでいて大変だが)
- ・地方のまつりも行くが、すごく混む。車も止められないし、食べ物の行列もすごい
- ・温泉は欲しい。温泉があると立ち寄る
- ・南幌町のキャベツ天井は食べに行った。あのようなインパクトがあれば食べに行く

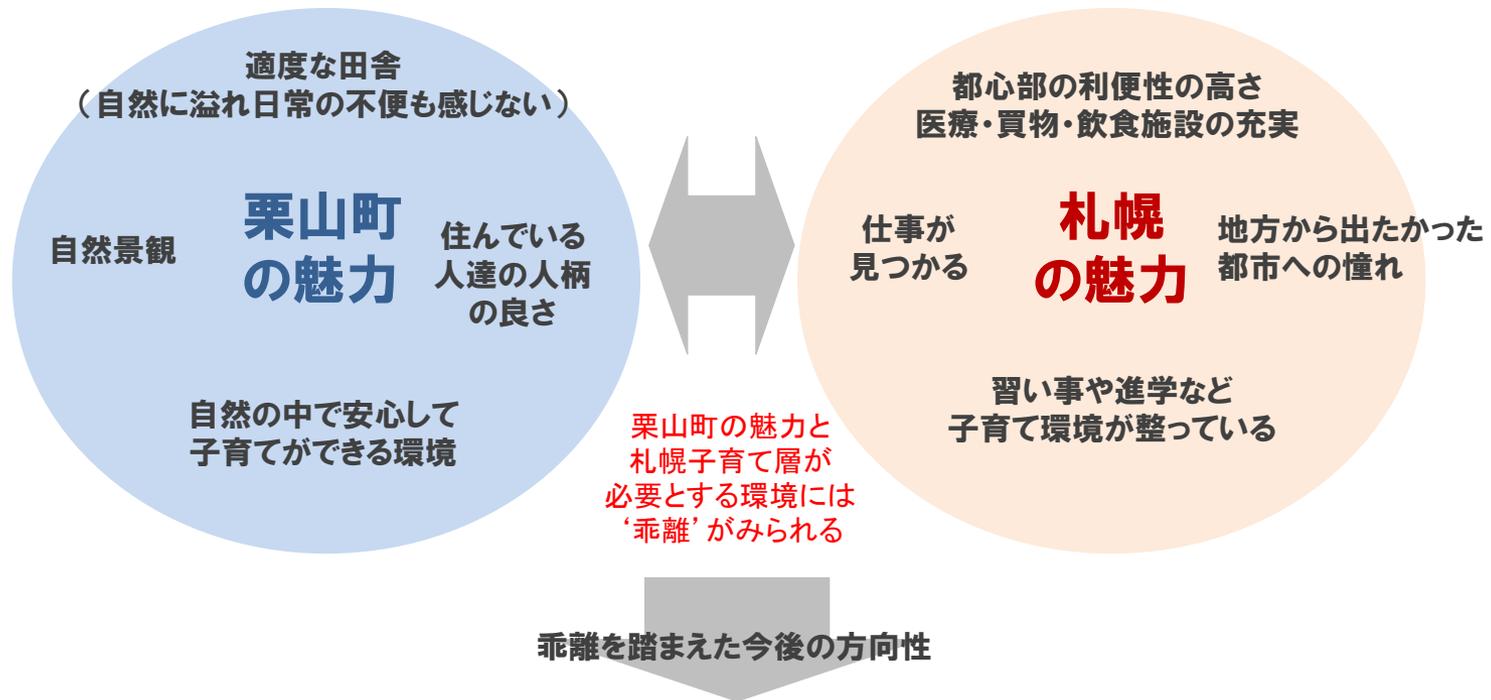
栗山町移住へのきっかけづくりに向けて

- ・高校や大学などがあれば、人も増えると思う
- ・ファミレス的なお店が欲しい
(=年中無休で深夜まで営業している飲食店)
- ・スターバックスなど若い人が好む施設が欲しい
- ・栗山町にスタバやびっくりドンキーがいっぱいあったら今の栗山町ではなくなるはず。栗山町の良さをわかる人が栗山町に行くべきだと思う

3. 総括

札幌子育て層は「子育てもしやすく、自分が気に入って暮らしている」という傾向が見られ、移住を考えるにしても「まずは仕事の確保」が優先される世代のため、移住先も職が探しやすそうな地方都市レベルへの移住を望む傾向が強い。

栗山町に関しては、「栗山町といえば〇〇」というコアの部分が町内・町外からも不明であり、情報も十分ではないためまずは「栗山ブランド(魅力的な栗山町らしさ)」=「栗山の人と自然による、豊かな子育てのマチ」を発掘・構築し、町内外へ浸透させていくことが今後のポイントとなる。



- ① インナー向け・アウター向けの栗山情報のコンテンツ・ツールの整備(WEB、広報誌、小学校を含め、あらゆる情報ルートについて)
- ② 上記対応を踏まえて「栗山町若者移住促進」の活動を、まずは町民に知ってもらい、町民一体となった「栗山ブランドの形成」を実施
- ③ 栗山情報を発信し、栗山町の知名度と栗山町の魅力をアピール。まずは交流人口拡大を狙う。
- ④ 栗山町の良さを理解し、住みたいと思ってくれるコアなターゲットを町内外のイベント等で発掘し、定住人口拡大へと繋げる